



県政懇談会 「ふれあいトーク」 てぼかい合唱団から 地域に新風を

ふれあいトークで増田知事（前列左から3番目）と山口振興局長（前列右から3番目）を囲んで「はい、パチリ」。笑顔の団員たちは、左前列から日向絢子さん、代表の森田真奈子さん、藤島勝己さん、金子美枝さん、後列左から長澤工いさん、金子泰子さん、大村純子さん、佐々木文加さん、野田口弘子さん

森田代表は、活動の思い出として平成十年に実施した京都大学オーケストラとの交流をあげ、「不可能と思われた京都大学との交流もてぼかい合唱団が一生懸命働きかけ実現しました。今後は、コーラスを楽しみながら、宮澤賢治にもふれ、賢治を通じて地域づくりへ貢献していきたい」と地域づくりへ意

県政懇談会「ふれあいトーク」は、六月十日、増田寛也知事、久慈地方振興局長の山口和彦局長など県の関係者約十人と、てぼかい合唱団（森田真奈子代表、会員十二人）から団員九人が参加して、ふれあい交流センターを会場に行われました。

ふれあいトークは、増田知事が自ら座長を務め、てぼかい合唱団が誕生したいきさつや日ごろの活動、近隣村との交流など、合唱団に対する団員ひとり一人の思いを聞くかたちで、和やかに進められました。



コーラスに寄せる思いを語る団員たち（中央）

増田知事は、「音楽のふれあいトークは初めてです。皆さんの会話の中から課題をたくさん見つけることができ、とてもいい勉強になりました」と、にこやかな表情で団員ひとり一人と握手。次の会場である田老町に向け出発して行きました。

欲を見せていました。ふれあいトークで、団員たちは「小さくてもいいから音楽ホールがあればうれしい」、「指導してくださる先生がいて、ずーっとコーラスを続けていけるように望んでいます」など、コーラスに寄せる思いをそれぞれ発言。

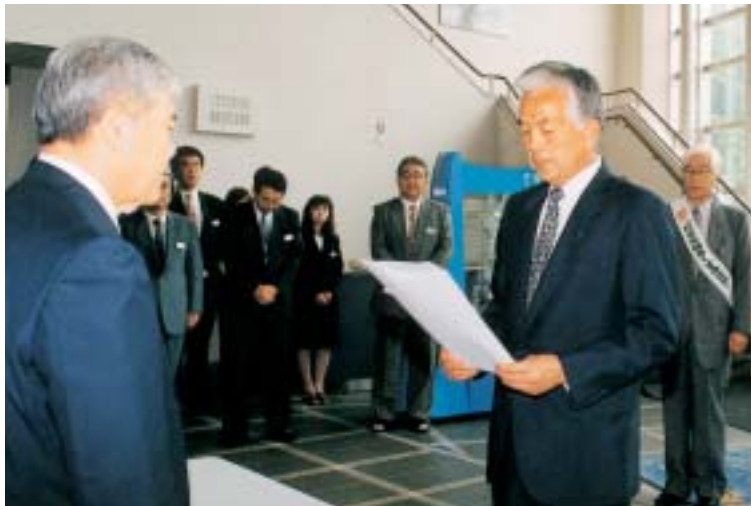
社会を明るくする運動 ふれあいと対話で健全育成

「社会を明るくする運動」の協力を呼びかけるため、七月一日、久慈地区保護司会（柏木睦夫会長、三十二人）の方々七人が村を訪れました。

ホーム大臣のメッセージは、久慈保護区の米田正保護司（旭日区）から深渡宏村長へ伝達されました。

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちや非行に陥った少年たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

運動の重点目標を「犯罪や非行を防止し、罪を犯した人や非行をした少年の更



伝達式でホーム大臣のメッセージを朗読する米田保護司（中央）

くり参考に参画する」としています。

運動は、統一標語に「ふれあいと対話が築く明るい社会」を掲げ、地域に根ざした、大人も子どもも夢や希望を持ち、支え合って生きていけるような地域社会を目指した幅広い活動を展開していきます。

生を支え、人々が支え合って生きていく明るい地域づく